

別表 1

研修カリキュラム表

事業所名；社会福祉法人十日町福祉会

平成30年度

科目の内容等				評価方法
科目の細目	時間	「終了時の評価ポイント」番号	実施方法	評価方法
1 職務の理解（6時間）				
多様なサービスの理解	3	—	（講義） ・介護保険の各サービスやそれ以外のサービスの概要を説明する。	評価なし
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	—	（講義、DVD視聴、グループワーク） ・居宅・施設での仕事内容について説明する。 その後どのような感想を持ったか、ワークシートに記入、提出させる。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）				
人権と尊厳を支える介護①	3	2-①	（講義、グループワーク） ・介護職としての基本理念（基本的人権や個人の尊厳）を説明する。 ・ICFの視点、QOLの捉え方、ノーマライゼーションの理念を説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
人権と尊厳を支える介護②	3	2-②	（講義、グループワーク） ・高齢者虐待防止や身体拘束禁止について説明し、併せて養護者支援についての必要性を理解させる。 ・各種高齢者を支える制度について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	
自立に向けた介護	3	2-①	（講義、グループワーク） ・介護保険法の基本理念である自立支援について説明する。 ・自立支援や重度化防止等に資するケアへの理解を促す。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	
3 介護の基本（6時間）				
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	3-① 3-②	（講義、グループワーク） ・居宅と施設の介護環境の特性、地域包括ケアシステムの役割と機能について説明する。 ・介護の専門性について説明する。 ・介護に関わる職種とその役割、多職種連携の	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。

			<p>チームケアの必要性を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。 	
介護職の職業倫理	1	3-③	<p>(講義、グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職としての倫理の意義及び介護職の職業倫理及び責任と役割を説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。 	
介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	3-④	<p>(講義、グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全確保と事故防止への対応について説明する。 ・感染に対する知識について説明する。 ・事故発生時の対応について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。 	
介護職の安全	1	3-⑤	<p>(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職に起こりやすい心身の健康障害とその予防について説明する。 ・手洗い・うがいの重要性を伝え、手洗いの基本について演習を行う。 	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)				
介護保険制度	2.5	4-① 4-② 4-③	<p>(講義、グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度について背景と目的・動向及び基本的な仕組みについて説明する。 ・介護保険サービスの種類ならびに予防給付の種類を説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。 	<p>研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。</p>
医療との連携とリハビリテーション①	2	4-⑤	<p>(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医行為と介護行為について説明し、施設及び居宅における介護と看護の役割及び連携について説明する。 ・利用者の健康状態の観察及びバイタルサインの測定方法について説明し、模擬演習を行う。 	
医療との連携とリハビリテーション②	2	4-⑤	<p>(講義)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションの意味と理念、目的及びその分類・過程を説明する。 	
障害者自立支援制度及びその他の制度	2.5	4-④	<p>(講義、グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者自立支援制度について背景と目的・動向及び基本的な仕組みについて説明する。 ・障害者自立支援制度における給付の種類を説明する。 ・個人の権利を守る各種制度について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。 	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）				
介護におけるコミュニケーション	3	5-① 5-② 5-③	（講義、グループワーク） ・コミュニケーションの意義と目的、役割及び信頼を得るための効果的なコミュニケーション技法を説明する。 ・ロールプレイで体験し、技法を確認する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護におけるチームのコミュニケーション	3	5-④	（講義、グループワーク） ・チームにおける情報共有の重要性について説明する。 ・利用者の状態を踏まえた観察と記録方法について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	
6 老化の理解（6時間）				
老化に伴うこころとからだの変化と日常	2	6-①	（講義、グループワーク） ・老化に伴う心身の変化及びそれによって生じる日常生活への影響について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
高齢者の健康	4	6-②	（講義） ・高齢者に起こりやすい疾病と生活上の留意点を説明する。（外科的なもの、内科的なもの）	
7 認知症の理解（6時間）				
認知症を取り巻く状況	1	7-①	（講義） ・認知症ケアの理念や考え方について説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	7-② 7-⑤	（講義、グループワーク） ・認知症の概念及び原因疾患・病態及び認知症の人に生じやすい身体的不調とケアのポイントについて説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	7-③ 7-④ 7-⑥ 7-⑦	（講義、グループワーク） ・認知症の中核症状及び行動・心理症状について説明する。 ・心理面に配慮した関わり方について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	
家族への支援	1	7-⑧	（講義） ・家族の不安と負担に配慮した適切な支援について説明する。	
8 障害の理解（3時間）				
障害の基礎的理解	1	8-①	（講義）	研修の全科目履

			・障害の概念と ICF の考え方及びノーマライゼーションの概念を説明する。	修後、筆記試験による修了評価において評価する。
障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	8-①	(講義、グループワーク) ・障害の特性及び障害に応じた生活支援の留意点について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	
家族の心理、かかわり支援の理解	1	8-②	(講義) ・家族の不安と負担に配慮した適切な支援について説明する。	
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)				
■基本知識の学習 (10時間)				
介護の基本的な考え方	3	9-②	(講義、グループワーク) ・ICFの視点に基づく生活支援と法的根拠に基づく介護について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	「基本知識の学習」の最後の1時間を使い、基礎的知識の理解度について確認するため、筆記による小テストを実施する。
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	9-④	(講義、グループワーク) ・経験と記憶及びさまざまな感情と意欲の基礎知識について説明する。 ・自己概念や生きがい等に影響される高齢者の生き方について説明する。 ・老化によって生じるからだの変化がこころに与える影響を説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	9-⑤	(講義、グループワーク、小テスト) ・介護の専門職として必要な人体各部についての名称、骨格・関節・筋の働きを説明する。 ・こころとからだを一体的に捉える重要性について説明する。 ・ボディメカニクスを踏まえた介護への活用方法を説明する。	
■生活支援技術の学習 (54時間)				
生活と家事	3	9-① 9-⑥	(講義、グループワーク) ・生活における家事援助の必要性及び利用者が望む衣食住の生活支援について説明する。 ・家事援助は、利用者の自立と QOL の向上に向けた援助であることを説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	次の①及び②により評価を行う。 ①介護技術を提供する各手順のチェックリスト
快適な居住環境整備と介護	4	9-③	(講義、実技演習) 2時間は介護技術に関する講義を行い、残り2時間で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す事例にもとづいて実施)	形式による確認を行い、 <u>介護技術の習得度に関わる評価</u> を行う

			<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障害者が快適に過ごすことができる居住環境整備について説明する。 ・介護保険による住宅改修や福祉用具貸与等について説明する。 ・福祉用具の基礎知識について留意点と活用方法について説明し、実際にいくつかを使用してみる。 	<p>う。</p> <p>②研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において知識の理解度に係る評価を行う。</p>
整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	9-⑦	<p>(講義、DVD視聴、実技演習、習得度の確認)</p> <p>3時間は介護技術に関する講義を行い、残り5時間で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す事例にもとづいて実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容の意義及び具体的対応について説明する。(爪切り、衣服の着脱、整髪、洗面、化粧) ・整容介護技術について模擬演習を実施する。 ・整容介護における技術習得度の確認を行う。 	
移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	9-⑧	<p>(講義、DVD視聴、実技演習、習得度の確認)</p> <p>3時間は介護技術に関する講義を行い、残り5時間で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動・移乗介助に必要な基本知識及び利用者の自立に向けた支援について説明する。 ・ボディメカニクスの基本原理を抑えた移動・移乗技術を説明する。 ・移動・移乗に関する用具(車いすや杖等)の特徴とその活用方法について説明する。 ・移動・移乗介護技術について模擬演習を実施する。(体位変換、車いす移乗、車いす介助、歩行介助、他) ・介護技術の習得度について確認を行う。 	
食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護①	8	9-⑨	<p>(講義、DVD視聴、実技演習、習得度の確認)</p> <p>3時間は介護技術に関する講義を行い、残り5時間で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の意味及び食事摂取の仕組みと加齢や障害に伴うさまざまな症状について説明する。 ・食事時の支援及び誤嚥時の対応について説明する。 ・食事介護技術について模擬演習を実施する。 (食事介助、飲水介助、誤嚥時の対応) ・食事介護技術の習得度について確認を行う。 	
食事に関連したところ	3	9-⑨		

とからだのしくみと自立に向けた介護②			<p>1.5 時間は介護技術に関する講義を行い、残り 1.5 時間で実技演習を行う。(実技演習は、あらかじめ講師が示す事例にもとづいて実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの意義及び具体的対応について説明する。 ・口腔ケア介護技術について模擬演習を実施する。 ・口腔ケアにおける技術習得度の確認を行う。
入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	9-⑩	<p>(講義、DVD視聴、実技演習、習得度の確認)</p> <p>3 時間は介護技術に関する講義を行い、残り 5 時間で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴の意義と効果及び体調確認や入浴のリスク等について説明する。 ・入浴等介助技術について手順と留意点を説明し模擬演習を実施する。(全身清拭・全身浴・半身浴・洗髪、足浴、手浴) ・入浴等介護技術の習得度について確認を行う。
排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8	9-⑪	<p>(講義、DVD視聴、実技演習、習得度の確認)</p> <p>3 時間は介護技術に関する講義を行い、残り 5 時間で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄の意義と目的及び快適な排泄介助について説明する。 ・排泄用具の特徴や活用方法を説明し、自立を促す介助方法を説明する。 ・排泄介助技術について手順と留意点を説明し模擬演習を実施する。(ポータブルトイレ、差し込み便器、おむつ交換) ・排泄介護技術の習得度について確認を行う。
睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	2	9-⑫	<p>(講義、DVD視聴、実技演習、習得度の確認)</p> <p>1 時間は介護技術に関する講義を行い、残り 1 時間で実技演習を行う。(実技演習は、整容演習で用いた事例と同様の事例により実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠のリズムや意義及び睡眠を阻害するところとからだの要因について説明する。 ・安眠への介助及び褥瘡予防への介助について手順と留意点を説明する。(ベッドメイキング、体位変換と安楽姿勢の確保) ・模擬演習により技術を習得させる。

死に行く人に関連した こころとからだのしく みと終末期介護	2	9-⑬	(講義、DVD視聴、グループワーク) ・終末期介護の基本及び終末期にある人の心理 と家族への支援について説明する。 ・精神的・身体的苦痛の軽減や介護職の役割・ 他職種との連携について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	
■生活支援技術演習（11時間）				
介護過程の基礎的理解	3	9-① 9-②	(講義、グループワーク) ・介護過程の目的と意義及び重要性とチームア プローチの重要性について説明する。 ・テーマを設定し、グループワークで話し合う。	研修の全科目履 修後、筆記試験 による修了評価 において知識の 理解度に係る評 価を行う。
総合生活支援技術演習	8	9-② <u>9-⑦</u> <u>9-⑧</u> <u>9-⑨</u> <u>9-⑩</u> <u>9-⑪</u> <u>9-⑫</u>	(講義、グループワーク) ・ある状態の利用者を想定し、生活支援の展開 について方法と根拠についてグループごとに 検討する。 *事例の提示→こころとからだの力が発揮で きない要因の分析→適切な支援技術の検討 →支援技術演習→支援技術の課題 *事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、 座位保持不可）から2事例を選択して実施	介護技術を提供 する各手順のチ ェックリスト形 式による確認を 行い、 <u>介護技術</u> <u>の習得度に関わ</u> <u>る評価を行う。</u>
10 振り返り（4時間）				
振り返り	2	なし	(講義、グループワーク) ・研修を通じて学んだこと及び今後継続して学 ぶべきこと、確認事項等についてグループワー クを行う。 ・話し合った内容をまとめて発表し、確認事項 については再確認を行う。	
就業への備えと研修修 了後における継続的な 研修	2	なし	(講義) ・介護職という仕事の状況や介護資格制度を復 習し、継続学習の意義を再度理解させる。 ・研修終了後における継続的な研修について、 事業所等における事例（OJT、Off-JT）を紹 介する。	
合 計	130時間			